



大阪プロバスクラブ

会報 第374号

2022年11月9日発行

Monthly Bulletin of
The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111
 例会日：(原則) 毎月第2月曜日 12時より14時まで
 ○創立 2001(平成13)年7月9日創立記念式7月16日
 ○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ
 ○友好クラブ：箕面ロータリークラブ
 ○会長：有竹正巳 ○幹事：西宮富夫 ○事務局：(幹事宅)
 〒563-0022 池田市旭丘2-6-25 Tel：090-7496-5096
 ○会報担当：西宮富夫 pxi06603@nifty.com
 ○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>
 ○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>
 ○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版
<http://probuscent.exblog.jp/>

令4年9月中旬から10月中旬まで1か月間の更新分(順不同)

クラブ	会報	記事一部
赤穂	会報 第44号	新役員、5月例会講話「人・歌 巡礼」 沖中泰規(作曲家)、他
旭川	会報 第207号	新庁舎9階展望フロアに「旭川プロバ スクラブ銘板寄付(3万円)」、他
東京八 王子	プロバス だより 第322号	私の戦争の終わり(立川富美代)、から す部隊(東山榮)、8月15日(浅川文 夫)他
北九州	つながり 第195号	楽しい楽しい暑気払い、同好会活動報 告(川柳を楽しむ会、食美会他)、他
奈良	会報 第100号	新役員、奈良プロバスクラブHP立ち上 げ(nara-probus.jp)、他

東京多 摩	ニュース 第102号	新役員、PROBUS Global プロバスグロー バルの紹介(1)伊藤健一会員、他
神戸北	4月例会 のご案内	神戸ロータリークラブから「プロバス クラブ設立について」問い合わせ、他
大阪	会報 第372号	近況報告「6月初旬東北に行ってきた」 小林惇三会員、他

今回 第375回 通常例会 2022年11月9日(水)
 会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00

- 大阪プロバスの歌(作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎)
 - ① プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
 - ② プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
 - ③ プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気
世界に広がる和の願い 明日も愉快に生き抜こう

- ドングリコロコロ**(作詞：青木存義、作曲：梁田貞)

どんぐりころころ ドンブリコ
お池にはまって さあ大変
どじょうが出て来て 今日は
坊ちゃん一緒に 遊びましょう



どんぐりころころ よろこんで
しばらく一緒に 遊んだが
やっぱりお山が 恋しいと
泣いてはどじょうを 困らせた

画像引用元：ドン
グリの見分け方

前回 第374回 美食会 2022年10月12日(水)
 会場：ANA クラウンプラザ 12:00~15:00

◎第374回 美食会「中国料理 花梨(かりん)にて」

- 司会進行：野村尚子会員
- 有竹正巳会長挨拶
- 美食会：17名参加。司会：浅山紀久子親睦委員長



大阪プロバスクラブ美食会(ANA クラウンプラザ)
 (2022年10月12日)

◎花梨 菜譜

- ・花梨特製前菜
- ・調理長特製逸品
- ・北京ダック
- ・鮑のオイスターソース
- ・伊勢海老のチリソース
- ・A5 和牛の天然黒須ソース
- ・ネギの香り汁そば
- ・調理長お薦めデザート



◎移動例会報告「今日は美食会で堂島に来ています」 西宮富夫会員

今日は移動例会で堂島に来ています。ここ堂島は1703年（元禄16年）に近松門左衛門が書き下ろした曾根崎心中の舞台の地です。皆さん慣れ親しんでいる地ですが、すぐ近くにお初天神もあり、せっかくの機会ですので、曾根崎心中に触れてみます。（下図Google mapより）



●曾根崎心中

・1703年（元禄16年）4月7日「天神の森」で堂島新地天満屋遊女お初と内本町平野屋手代徳兵衛が心中した。この事件を近松門左衛門が「曾根崎心中」として書き下ろし、1か月後の5月7日竹本座で人形浄瑠璃「曾根崎心中」が初演された。（下図Google mapより）



（Wikipediaより）曾根崎心中は好評を博し、「竹本座」は抱えた借金を返済してしまったと伝えられている。心中した「天神の森」のある「露天神社」も一躍有名となり、お初の名前から以後今日まで「お初天神」と通称されている。ところで（心中-コトバンクによると）当時、心中死（情死）は多かったようである。曾根崎心中が大好評を博したのは新しい人形浄瑠璃として公演された点もあるが、近松の「道行みちゆき」本文が大きく貢献したと思われる。



（近松門左衛門画像引用元：Wikipedia 画像「早稲田大学演劇博物館所蔵」を拡大した）

●曾根崎心中「道行」冒頭（引用元：Artwiki）

- ・曾根崎心中は3章構成：上の巻「観音廻り、生玉社」、中之巻「天満屋」、下之巻「道行、天神の森」。
- ・（道行本文冒頭）「この世の名残り、夜も名残り。死に行く身をたとふればあだしが原の道の霜。一足づつに消えて行く夢の夢こそ哀れなれ。あれ数ふれば暁の、七つの時が六つ鳴りて、残る一つが今生の、鐘の響きの聞き納め。」
- ・近松門左衛門の「道行」冒頭は、お初徳兵衛の「死に行くものの気持ち」、即ち、死を覚悟しながらもただ時が過ぎていく、そして最後に自分にとどめを刺すというものと思われるが、これが読むもの・聞くものにピンピン伝わってくる。特に人形の所作を見ながらであるなら、死にゆくものの気持ちが一層伝わってくると思う。
- ・当寺（現在）の人々は心中死にある程度慣れていたと想像するが、それでも「曾根崎心中」が竹本座の借金を返済するほど大好評を博したのは、「道行」本文で描いた「死に行くものの気持ち」が当時の人々に響いたからと想像する。
- ・また、（道行本文の終りの方）「いつまでかくてあるべきぞ。死におくれば恥の恥。いまが最期ぞ。観念」という部分は映画「最後の忠臣蔵」に使用されている。映画では人形浄瑠璃「曾根崎心中」の場面が出てくるが、「死にゆくものの気持ち」が確実に伝わってくる。
- （以下Wikipediaより）最後の忠臣蔵は、忠臣蔵の後日譚を描き、同名でテレビドラマ化もされた『四十七人の刺客』の池宮彰一郎の同名小説を映画化した作品である。

・「死に行くものの気持ち」の他の例

<浅野内匠頭長矩>風さそふ 花よりもなほ 我は
また 春の名残を いかにとかせん（1701年切腹）
<大石内蔵助義男>あら楽し思は晴るる身は捨
つる浮世の月にかかる雲なし（1704年切腹）
<萱野三平（涓泉）>晴ゆくや日頃心の花曇り
（1702年自刃）

この3つの辞世の句からは「死に行くものの気持ち」が確実に伝わってくる。こうして考えると、曾根崎心中のキーワードは「死に行くものの気持ち」と考えてよいのではないかと。なお、「死に行くものの気持ち」という言葉はTVドラマ藤沢周平原作「蝉しぐれ」#6終り頃に出てくるセリフである。

（※「蝉しぐれ」#6：2016年7月放送、時代劇専門チャンネル藤沢周平劇場録画）

●露天神社（つゆのてんじんしゃ）

（以下 Wikipedia より）

社伝によれば、創建は西暦 700 年頃とされ、社名は、「梅雨のころに神社の前の井戸から水がわき出たため」ともいうもののほか、西暦 901 年 2 月菅原道真が太宰府へ左遷される途中、ここで都を偲んで「**露とちる涙に袖は朽ちにけり都のことを思い出づれば**」との一首を詠んで涙を流したからとも伝えられている。

近松門左衛門のいたころの天神の境内は 560 余坪の広さがあり、近松は当時の天神の様子を「影暗く風しんしんたる曾根崎の森」、「天神の森」と書き記すほど木が鬱蒼と茂っていた。



露の天神社拝殿

●堂島新地

・現在の堂島はキタ新地と呼ばれ、曾根崎心中の「堂島新地」という呼称はやや違和感がある。

（Wikipedia によると）堂島には明治期まで「蜷川」（しじみ川）が流れており、1685 年に堂島新地（しじみ川左岸）、1708 年に曾根崎新地（しじみ川右岸）が拓かれたとのこと。よって、1703 年当時、堂島新地と呼ばれていたのは蜷川（しじみ川）と堂島川で挟まれた中州と言える。

また、「堂島新地を歩く」によると）遊女お初の居た堂島新地天満屋は、しじみ川に掛かっていた梅田橋辺り（現在の NTT 堂島ビル付近）にあったらしく、この辺りは繁華街で遊女屋も多かったとのこと。



（画像引用元：0-TUBE「中之島に架かる橋」より引用）

●堂島米会所

また、江戸時代、堂島には米会所があったが、これも有名である。この堂島米会所は世界初の本格的な先物取引市場だったが、この堂島米会所については別の機会に記事にしたいと考えます。

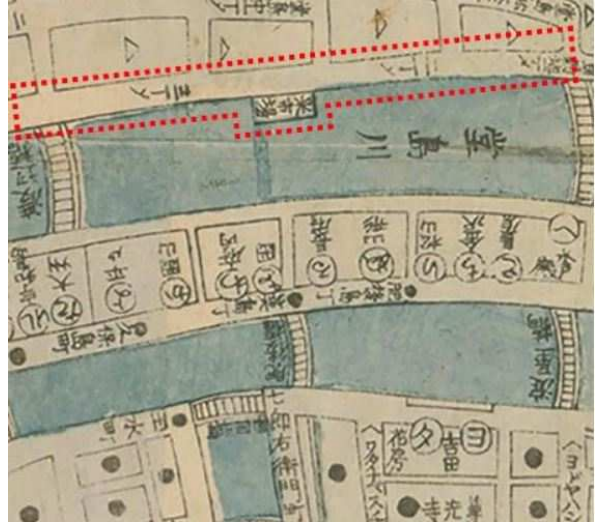
<浮世絵：堂島米会所>

（画像引用元：堂島米市場 東京証券取引所より）



<米市場周辺：蔵屋敷が立ち並んでいる>

（画像引用元：堂島米市場 東京証券取引所より）



◎近況報告「青蓮院へ行ってきた」元会員山村紗智子氏

先月 9 月 26 日友達 4 人で京都東山の青蓮院へ行ってきた。青蓮院は皇族が門主を務める門跡寺院で、有名な寺院とのこと。

また、現在の知恩院は、元は青蓮院の土地だったとのこと、比叡山上にも青蓮院の土地（将軍塚周辺）があるとのこと、山上へも行ってきたとのことのお話があった。

（Mapion より作成）



（会報担当より：地図で見ると確かに知恩院は青蓮院に隣接している。将軍塚は東山山上にポツンとある。）

●青蓮院の歴史 (Wikipedia より一部抜粋引用)

- ・青蓮院は、天台宗の三門跡寺院の一つ。「門跡寺院」とは皇族等の子弟が入寺する寺院であり、青蓮院は皇族出身で親王の称号を与えられた僧侶が門主（住職）を務めてきた。
 - ・青蓮院は比叡山東塔の南谷（現・延暦寺第三駐車場）にあった最澄が建立した青蓮坊がその起源である。1150年（久安6年）に鳥羽上皇と皇后美福門院は行玄に帰依して青蓮坊を祈願所とした。これ以降、当院は皇族や摂家の子弟が門主を務める格式高い寺院となった。
 - ・門跡寺院となって山下に移ったのは平安時代末期、青蓮坊の第12代行玄大僧正の時である。現在では、將軍塚周辺が（青蓮院の）飛地境内となっている。
 - ・（青蓮院は）応仁の乱の際、兵火を免れず、また、徳川氏には豊臣氏滅亡後今の知恩院の全域を取り上げられた。しかし、室町時代以来の境内は今日まで保有され、徳川幕府も殿舎の造営には力を致して宸殿を造った。
- 1585年(天正13年)：豊臣秀吉、寺領百九十石の朱印状を付す
- 1603年(慶長8年)：徳川家康が知恩院を永代菩提所と定め、寺領七百三十石余を寄す
- 1604年(慶長9年)：家康、青蓮院の地を割き、寺地堂舎を造堂

<青蓮院配置図> (画像引用元：天台宗青蓮院門跡)



●第3代門主「慈圓」は新興仏教にも理解

(「天台宗青蓮院門跡」の由緒によると) 青蓮院が最も隆盛を極めたのは、平安末期から鎌倉時代に及ぶ第三代門主慈圓のときで、慈圓は時代の流れにも積極的な理解と対応を示し、当時新興宗教だった浄土宗の祖法然上人や、浄土真宗の祖親鸞聖人にも理解を示し、延暦寺の抑圧から庇護した。例えば、1181年松若丸(親鸞の幼名)9歳の時「宸殿」で3代門主慈圓について得度をしたことから、「お得度の間」とも呼ばれ、青蓮院は同宗の聖地の一つとなっている。

また、江戸時代(1788年)に、大火によって御所が炎上した時に、後桜町上皇は青蓮院を仮御所としてご避難された。

庭内の「好文章」はその際に御学問所としてご使用された。また、青蓮院は粟田御所と呼ばれており、「青蓮院旧仮御所」として国の史跡にも指定されている。



好文亭茶室 (画像引用元：天台宗青蓮院門跡)

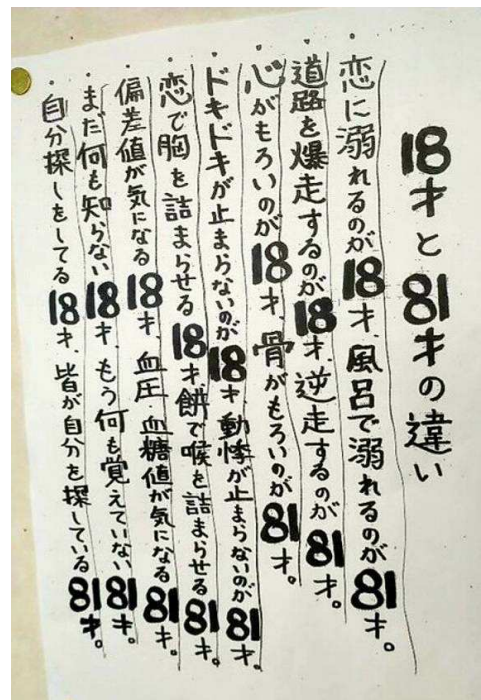
●楠の巨木 (画像引用元：青蓮院の楠より)

境内西側門前には京都市天然記念物の楠の巨木が5本ある。写真：門前の大楠(親鸞聖人の手植えと伝わる)



◎吉川栄子会員提供「笑点大喜利で取り上げられた18歳と81歳の違い」

(ノブコフ氏がTwitterに投稿した) この画像はある定食屋の壁の張り紙で、ネット上で話題になっているとのこと。同じ張り紙を他にも見かけられるらしい。せっかくなのでそのまま掲載しました。(会報担当より)



次回 第376回 Xmas 例会 2022年12月21日(水)
会場：ホテルモントレ大阪 16:00~19:00